

【木曾川上流河川事務所が作成した教材の授業での活用例】



授業の導入部で、提示資料を使って河川施設について関心をもたせた上で、課題を提示



ワークシートを使って、ハード整備の名称やその施設の役割をクイズ形式で学ぶ



自分の考えた答えを発表



誰が施設をつくっているのかについて、自分の考えを発表し、皆の意見を聞いた上で答え合わせ



学習のまとめを板書後、自分で考えたことをワークシートに記入

～みんなの声～

- ・災害に関わる施策は市や町、国土交通省に関係があることを知り、それぞれの役割を詳しく知ることができました。
- ・災害対策には様々な人が関わっていることがわかりました。
- ・災害対策にはハード、ソフト面の両方が大事だと学ぶことができました。
- ・避難所やハザードマップは市や町の人に関わっていることを知ることができました。

輪之内町立大藪小学校5年1組の総合的な学習の時間において、木曾川上流河川事務所が作成した防災教育教材(地域の水防設備、水防団などの地域の取組(共助)に関する資料、ワークシート等)を用いた授業が実施されました。

- 日時：令和2年9月25日(金) 15:00~15:45 (45分)
- 場所：輪之内町立大藪小学校
- 対象：5年1組(23名)
- 担当：大藪小学校 近藤先生
- 教材：発問計画(教員用)
：板書計画(教員用)
：提示資料
(地域の施設の例、水防団の活動の様子、いざという時のための訓練の様子を示す資料・参考資料)
：ワークシート
(地域での水害への備えや水防団の取組、活動への思いを写真と絵で結びつけ感想を記入するプリント)

- 【授業の内容(大藪小学校5年1組の例)】
- テーマ 3. 災害を防ぐ地域の取り組み(共助について)※
- ①
②
③

①導 入：水防設備の写真、水防倉庫の備品写真などから、水防設備についての関心を持つ。

②展 開：普段は仕事を持っている地域の大人が、水防団として水害に備えて訓練や施設点検をしていること、また水防団の思いを知る。

③終 末：地域の人が協力して地域を守る取り組みを「共助」という言葉として理解、ワークシートに学習を通して学んだこと・共助を実践する人々の思いについて感想をまとめる。
- ※4つあるテーマの1つを授業で取り扱いました。

【木曾川上流河川事務所が提供した教材の例】

流れ	発問計画	指導上のポイント	教材解説
展開 (25分)	2 水防団(消防団)・自主防災隊の活動、思いについて知る。 (映像を見る、あるいは資料4を提示する) ※グループワーク： ・水防団の活動内容、どんな思いで活動しているか。	・身近な河川等には、水害に備えるための施設があることに気づかせる。	【映像】【資料4】水防団の役割、普段していること、実際に活動したとき、大変だったこと、活動にあたっての思い等の話についての資料

発問計画・学習教材

3. 災害を防ぐ地域の取組(共助について)

本時のねらい(目標)
水害から自分たちの命は自分たちで守るという思いを持って公助の取り組みと協力しながら地域の人々が活動していること、水防の内容や必要性について理解する。

※指導計画の.....は、予想される児童の発言(児童に伝えたい発言)を示す。

流れ	発問計画	指導上のポイント	教材解説
導入 (10分)	1. 水防設備への関心を引き出す。 (資料1を提示する) 発問：このような倉庫が近くにあることを知っている人はいますか?どこにありましたか? 発問：この「土のう」という道具は何に使うのでしょうか? ※発問：「堤防が壊れないように土を盛りこんで土を固める」というように土を盛りこんで土を固める。など (資料2、3を提示する) ※解説：備品についての説明資料で答え合わせ	・身近な河川等には、水害に備えるための施設があることに気づかせる。	【資料1】水防倉庫外観・倉庫内・積んでいる備品・水防工法用の道具の写真 【資料2】写真の備品の用途、使用方法の資料 【資料3】使用方法の資料

発問計画の例

板書計画：3時限目「災害を防ぐ地域の取り組み(共助について)」

今日の課題：水害に備えて、地域の人々はどのような取り組みをしているのだろうか。

まとめ
・水防団の人たちは、自分達の町を自分達で守りたいという思いをもって、訓練や水害のときの活動「共助」を行っている。

板書計画の例

ワークシート：災害を防ぐ地域の取組

地域の人々が協力して、水害に備える取り組み「共助」

※自分の授業で学んだ「共助」を絵で地域の取り組み(共助)を表現して、わかったことをまとめてみましょう。

ワークシートの例

水防倉庫 資料1

水害に備えて、土のうや防水シートなどが様々なものが備えてあります

水防倉庫の中の様子
土のう

水防倉庫の備品の活用 資料3

土のうを使った水防工法

水害が発生しそうなのは、土のうをたくさん使って、堤防から水があふれだりするのを防ぎます。またシートの固定などにも利用します。

堤防に土のうを敷きつけて、あふれた水が安全に流れます(月の職工法といわれます)
堤防にはシートが敷いていないと土のうもろくなります

提示資料の例

【木曾川上流河川事務所が作成した教材の活用例】



授業の導入部では、地元の水防倉庫の写真などを使って地域の設備について関心をもたせる



水防団の活動について、聞き取りを行った資料を使って活動内容とその思いを学ぶ



水防団の活動や地域への思いについて自分の感じたことを発表



グループワークで自分の感じたことを発表し、あらためて自分の意見をまとめる



学習のまとめを板書後、自分で考えたことをワークシートに記入

～みんなの声～

- 地域の人々が協力して、災害の時に地域を守る取組を「共助」ということが学べました。
- 水防団の方々普段から夜にも訓練をしていることがわかりました。
- 地元の人が自分たちの地域を守るために頑張っていることがわかりました。
- 水防団の人たちは水害の危険が無くなるまで待機して大変だと思いました。

輪之内町立大藪小学校5年1組の総合的な学習の時間において、木曾川上流河川事務所が作成した防災教育教材(学習指導・発問計画、板書計画、マイ・タイムライン紹介映像、小学校版ハザードマップ、ワークシート等)を用いた授業が実施されました。

- 日時：令和2年10月2日(金) 15:00～15:45 (45分)
- 場所：輪之内町立大藪小学校
- 対象：5年1組(23名)
- 担当：大藪小学校 近藤先生
- 教材：発問計画(教員用)
：板書計画(教員用)
：提示資料
(小学校版ハザードマップ、避難の目安となる「警戒レベル」等)
：映像資料
(マイ・タイムライン紹介映像)
：ワークシート
(マイ・タイムラインを作成するプリント)

【授業の内容(大藪小学校5年1組の例)】

- テーマ 4. 私たちにできること(自助について)※
 - ①導入：マイ・タイムライン紹介映像を視聴し、水害に対して備えることが大切だと意識する。
 - ②展開前段：小学校版ハザードマップを使って、学校や家の周りの危険な箇所について調べる。
 - ③展開後段：マイ・タイムラインシートに、各自、水害時にとるべき行動について、「いつ」行うべきかを記入し、意見を出し合う。
 - ④終末：とるべき行動、やっではない行動を共有し、「水害には予兆があり、準備をすることで命を守ることができる」ことを伝える。
- ※今回は4テーマある内の1つを授業で取り扱いました。

【木曾川上流河川事務所が提供した教材の例】

発問計画の例

板書計画の例

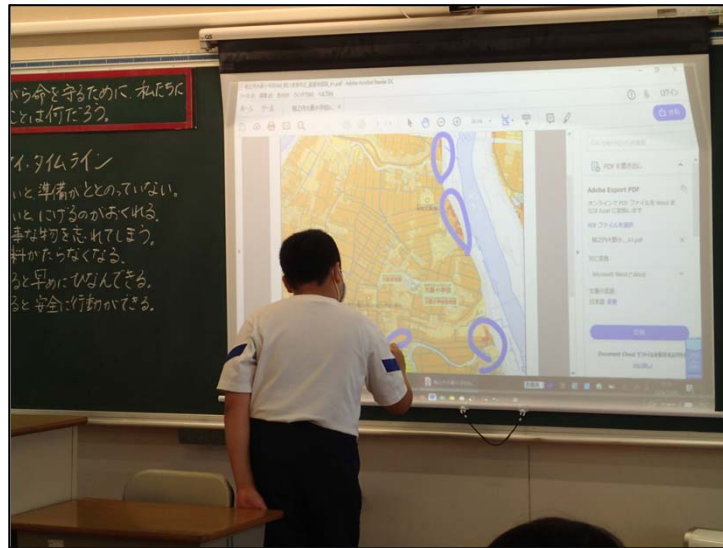
ワークシートの例

提示資料の例

【木曾川上流河川事務所が作成した教材の活用例】



映像から、マイ・タイムラインについて水害時に行うべきことを学ぶ



ハザードマップを使って、危険な箇所について自分の考えを発表する



マイ・タイムラインを作成して、「いつ」「何をすればよいか」を考える。



各自のマイ・タイムラインに記載した「行動」と「タイミング」について意見交換



水害には予兆があり、「準備」をすることで命を守ることができることを伝える

～みんなの声～

- ・マイ・タイムラインがあると、早めに避難できることがわかりました。
- ・マイ・タイムラインがないと、準備を慌ててしまい、避難が遅れてしまうことがわかりました。
- ・ハザードマップを見て、川から水が溢れそうな場所、町の中で水に浸かりそうな場所がわかりました。
- ・マイ・タイムラインを作ってみて、自分たちの身を守るために、普段から準備をすることが大切だとわかりました。